

## 令和元年度あわじ環境未来島構想推進協議会総会議事概要

- 1 日 時 令和元年 5 月 31 日(金) 14:30～16:30  
 2 場 所 淡路夢舞台国際会議場 2Fメインホール  
 3 構成団体数 110  
 4 出席団体数 47(委任状出席 48) ※出席名簿上から当日欠席あり(5 団体)  
 5 出席者氏名 別紙のとおり

発言者	内容
嶋田会長 (一財)淡路島くふうみ協会	(開会あいさつ)
平岩未来島推進課班長	<b>来賓、アドバイザー紹介</b>  本日の協議会の出席状況について、事務局から説明。
吉野未来島・渦潮参事	構成団体数110団体中、47団体が出席、委任状出席が48団体、規約第11条に定める総会開催要件の全構成団体 1/2 以上の出席を満たしており、本総会は有効に成立している旨、報告
吉野未来島・渦潮参事	<b>【規約関係について】</b> (資料1)により報告 (上記について異議なしにて承認)
吉野未来島・渦潮参事	<b>【企画委員会委員の指名について】</b> (資料2)により報告 (上記について異議なしにて承認)
吉野未来島・渦潮参事	<b>【あわじ環境未来島構想の現状と今後の取組について】</b> (資料3-1～3)により報告
野北広域調整課長	<b>【総合特別区域事後評価について】</b> (資料4-1～2)により報告
李代表理事 (NPO 法人兵庫 SPO 支援センター)	<b>【活動状況報告等について①】</b> (資料5)およびパワーポイントにて報告  住民が当事者となって地域課題に関わる「関係人口」を増やし、地域が地域を支えるしくみをつくり、地域の課題を解決に導いていく活動を実施。古民家を改修し地域住民の活動拠点「YORISOI 米田家」として、障害者支援団体の就労継続支援 B 型事業所、地元野菜のマルシェ、子ども食堂の実施、移住相談会場などに活用。暮らしの持続に貢献。

<p>松田戦略室長 ((一社)淡路島観光協会)</p>	<p><b>【活動状況報告等について②】</b></p> <p>(資料6)およびパワーポイントにて報告</p> <p>平成30年2月に策定した「淡路島総合観光戦略」による交流人口の増加等に向けた淡路島観光協会の組織体制強化(日本版 DMO 登録にかかる概要、必要性、課題など)や、多様な地域へ向けたプロモーションなど重点的に展開する事業、今後の展望、目標数値など紹介。</p>
<p>原議員 (兵庫県議会議員)</p>	<p><b>【意見交換の内容】</b></p> <p>今後の展望で説明のあった交通体系の整備(バス・航路等)で、淡路島を離島ベースで考えているのではないかということ。例えば私たちが沖縄に行ったらレンタカー、もしアメリカに行ったら空港からレンタカー(で移動する)。</p> <p>新神戸駅、神戸空港、伊丹空港からレンタカーをベースとして淡路に来るといところが抜けているのではないか。</p>
<p>高見県民局長</p>	<p>県民局の方では、EVカーを用いたレンタカーの支援を行っている。</p> <p>淡路島に入ってからレンタカーを使っただけで施策。ご指摘の空港から島に来て頂くという発想がなかったので、少し研究をさせていただく。県民局だけではやりにくい、空港で(つかまえた)人が淡路まで来てくれるかは不安。空港から淡路島へのバス直行便ははじめたところなので、成果を見ながら対応を考えていきたい。</p>
<p>中瀬学長兼校長 (淡路景観園芸学校)</p>	<p>廃プラスチックやレジ袋の世界的に問題になっていることをどうするのか。廃棄物の話をどうするのが気になった。</p> <p>御食国、国生み神話というワードが構想から8年が経つと段々と薄れてきたなど感じる。8年前に構想を作った時は、淡路島の美しい風景が背景にあったが、段々となくなっている気がする、もう一度当初のレポートを見て頂いて淡路の豊かさを表すことを再確認していただきたい。</p> <p>竹林の話、菜の花の話では、単発で(事業を)するのではなく、淡路島全体の風景論をやっていただきたい。竹林をあとかたもなく切ってチップ化するのもよいが、そしたら淡路の風景はどうなるのかと、菜の花は我々の世界では景観植物。そういう意味では竹林も菜の花も含めて美しい風景をつくっている。和牛、伝統行事、タマネギ、オレンジ、トータルで、淡路島が持つものを生産しながら美しい島をつくっているという雰囲気(構想に)味付けすると更に良くなるのではないか。</p>
<p>嶋田会長 ((一財)淡路島くにうみ協会)</p>	<p>中瀬先生のほうから御食国の話や、8年前の設立した当時の面影が少し薄れてきているという意見があるが観光協会の関係ではどうか。</p>
<p>松田戦略室長 ((一社)淡路島観光協会)</p>	<p>観光協会の立場からは、未来島構想のなかで事業化なり、表現を取り入れていただければと思う。</p>

<p>森栗教授 (大阪大学)</p>	<p>言いたいことは、つながなければいけないということ。</p> <p>阪神淡路大震災がおこって、豊かな私たちの(被災した)街をどう取り戻すのかという議論をした際、伝えたいふるさとの景観を、きちんと県民から集めようという話になり、集まった写真をみて淡路からの写真がたくさんあり驚いた。こんなに淡路が美しいところか、淡路の人達がこんなに自分達の地域に思いを持っているということにとっても驚いた。それがあわじ環境未来島構想の一番根幹どころではなかったか。</p> <p>そして、特区が始まったのだが少し批判を。一生懸命頑張ってるが、項目を沢山立てたら、何かが出来たというのは本当だろうか。頑張っているのは分かるが、沢山並んでいてよく分からない。これ自体が 20 世紀的ではないか。これで本当に淡路の人たちが幸せになるのか。</p> <p>今日とても嬉しかったのが、つなげていく推進役が現われたこと。ご講演の兵庫SPO支援センター。市民の中からファンドレイジする人が重要だと、これで色々な起業が、小さくてもソーシャルビジネスが起きてきたら良いこと。</p> <p>もう一つは、単に資源だけではなく、戦略的に観光協会がつなげていこうとしていること。生命つながるためには、私たちは意図的に皆でつながなければいけない。「何かやっているな」ではなく、一緒にやること、つなげていくことが大事。</p> <p>この特区、協議会の一番重要なところは、個別にバラバラにあるものをもっとつなげていく。人ごとではなく、自分たちのものだとつなげていく。それに外部の大学や若い人達がつながるともっと面白い。</p> <p>個別の話自然エネルギー100%という(目標値)は凄い。それをどのようにEVと、蓄電池を含めてつないで、スマートグリッドをもっと地域全体のなかで展開していき、ひょっとすると CO2 削減から逆かもしれないが、地域の中での小発電が大事。つないでいくということが極めて重要。それが持続的に展開し、人々がやってきて、観光にもつながり、新しい若者の仕事につながっていく。例えば農業就農者を増やそうと努力をされている小さな活動があるが、それを広げる。一方で玉葱の生産者はしんどくて続けられない、辛いというのがもったいない。もっとつなげて淡路を持続的に展開していかなければならない価値ある島。ぜひ、この淡路の価値を全国、世界に広めていくように皆でもっと繋げていきましょう。</p>
<p>鷺尾代表 (国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校)</p>	<p>がっかりしているのが「水産」という言葉が一言も出てこなかったこと。</p> <p>淡路島は海に囲まれている。水産のプランがどこかで消えてしまったのは残念。昨年暮れ漁業法が改正され、国の水産政策が大きく改変された。水産という世界は、産業政策として儲ける仕事、地域政策として津々浦々を盛り上げていくという2つの政策が車の両輪として動かなければならないが、この度の漁業法の改正は産業政策中心なので、地域を置いてきぼり、これは都道府県がやりなさいという役割分担になったということ。淡路島という地方が、自ら海をどう管理して、利用していくかを考えられる時代になった。あるいはそういう責任が出てきたというのが分かる。</p> <p>つなぐという言葉があったが、水産大学校では農水連携をしている。瀬戸内海周りの海は、栄養不足と地球温暖化、気候変動で大きなダメージをくらっている。天然資源依存型の漁業はもうしばらくは復活してこない。そうすると人工的に何かをしななければいけないので、今進めているのはキャベツでアワビを育てる。トマトでウニを</p>

<p>江川学長 (関西看護医療大学)</p>	<p>育てるといふ陸上養殖。小さな規模だが、農産物の端材、農地に捨てられるものをエサにして、海の生き物を育てる実験を展開している。新たな食材は海と陸が連携してできてくる。今後そういう発想を取り入れていただき、淡路島の周りを活性化していただきたい。</p> <p>天然のえびすさんの贈り物を待っているだけではなく、自らがそこに関わり育てていくという必要性がある。それをどう組織化していくのかは淡路島に住んでいる皆さんの暮らしのなかに取り入れていくのがまず大事。</p> <p>環境と食があれば、健康や癒やしというブランディングもあってはいいのではないか。セラピーということで提案したい。</p> <p>私たちの学校でも「セラピーアイランド淡路島」というブランディング事業をH28年度に文科省に承認いただいた。人は健康、淡路島は健康であるということを発信することが非常に重要である。癒やしは環境だけでなく、食も温泉も俳句も色々な文化がセラピー・癒やしになる。人間はそれぞれ時と場合によって、色々な癒やしを使って健康にならなくてはいけない。そういうものが淡路島には沢山あるのではないかとと思う。そういった面からのブランディングも考えていただければと思う。</p>
<p>木村元委員長 (第3・4期淡路地域ビジョン委員会)</p>	<p>車の交通アクセスの問題、連休にも多くの方が来られて本当にありがたいことだが、車の交通渋滞で淡路のイメージが悪くなったのではと危惧している。検討いただきたいのが、公共交通機関の充実。個人の車を減らして、公共バスで(淡路に)来るほうが環境にも良く、住民にとっても良い。個人の車で来ることもありがたいが、出来れば空港から島へ一本で淡路に来られる。そして淡路のなかで公共交通機関を利用して観光できるというのを、今後ぜひ考えて頂きたい。</p> <p>日本遺産の問題だが、せっかく認定いただいているが、淡路島における日本遺産の全容が分かる施設がない。例えば島内に日本遺産センターのようなものをつくって日本遺産を学ぶ、そこから公共交通機関を利用して観光できるものがあればよい。場所、場所でボランティアにするよりは、拠点のなかで情報発信をするのが良い。場所は拠点を決めていただき、例えば商店外の空き店舗や、閉校した学校等も利用可能だと思う。</p> <p>淡路島は本当に魚の宝庫で、いまサクラマスや、3年トラフグ、シラス、サワラ、タコ、色々なものを淡路島のなかで活用をしている。</p>
<p>岡田会長 (「環境立島淡路」島民会議 菜の花エコプロジェクト推進部会)</p>	<p>一番の心配は目標に向かってこれを支える人材作りのところで、一つ提案をしておきたい。</p> <p>農と食の持続。もう非常に大事な三本柱のなかの一つだが、田植えひとつにしても、いま直接携わっている人はもう限界にきている。次の世代がしっかりと育つような、しっかりと学んだその人たちが定着していくような人材作りをおこなう必要がある。</p> <p>里山、里地、里海、三点セットが、半日で味わえるのは淡路島だからこそ。その里山を守らないと、今まで獲れていた魚、例えば今年のイカナゴ漁は3日で終わった。瀬戸内海、室津の方では甘藷がしっかりと繁殖して、イカナゴは子を生んで、春告げ魚という形での生業が盛んに行われていた。そういう現状、育っていく仕組みは里山</p>

<p>(続き)岡田会長</p>	<p>を手入れして、手を打つ施策が必要である。</p> <p>農と食の持続を打ち出しているが、農業高校という名前がなくなってしまった。11月に福島農地再生委員会の方が福島大学の先生と、あわじ環境未来島構想取組を学びたいと来島された。あちらは農業高校がしっかりと生業をしている。6次産業化した製品を高校生が名前をつけて作り出している。</p> <p>淡路は20年このサイクルを一生懸命するために、2000年の花博で旗揚げをして、菜の花プロジェクトをしっかりと皆さんに本当に一丸となってやりましょうねと勧めてきた。県のほうも行政の主事業としてやってきてもらい、色々な形で応援をしてもらった。それを皆さんが見習いに来てくれている。それに恥じないように、将来をしっかりと見据えて育てていくような仕組みに早く手をつける必要がある。</p> <p>エネルギーのところでも、11月からFIT(固定価格買取制度)が徐々に軽減していく。今までのような再エネを買い上げる仕組みを弱めていこうとしている。淡路島の恵まれた日照時間でつくった再エネを、いかに島の中で使うかという仕組み、売るだけではなく、しっかり使って残ったら売りましょうという仕組みが次に必要。</p> <p>竹原地区は既に域学連携で6大学が係わってくれている。淡路島ロングトレイルで、竹原地区へのコース、由良、灘へ抜けるコースを作った。淡路島は津名丘陵で六甲山につながっている。その下は全部花崗岩。26ほどの清水があり湧水がある島。これを順番につないで、玄関口である明石海峡大橋から入って、日本遺産を順番に訪れながら、島をあげて味わってもらおうような受け入れ体制を作っていく必要がある。</p> <p>10月に鳴門海峡の世界遺産登録を目指す団体が、明石海峡、紀淡海峡、鳴門海峡3つの海峡のクリーンアップ大作戦を計画されている。ぜひこれに奮って参加していただきたい。どんなゴミがどんな風になっているのかをデータでICC(国際海岸クリーンアップ)に出すことにしている。そうすることで、淡路島の取組は世界の人たちに共有される。</p> <p>あとはアクセスの問題。淡路島は関空から一番近い島だが、色々な事業があって高速艇が止まった。もったいない。関空から(車で)2時間程かけて来るのではなく、莫大な値段ではなく、車会社を作っているエンジンをチューンアップした「エアホイルフレアライナー(詳細不明)」のような船で神戸を結ぶといった、アクセスとしても発想を切替えることが大事。</p>
<p>嶋田会長 (一財)淡路島くにうみ協会)</p>	<p>貴重なご意見の数々ありがとうございました。</p>
<p>金澤副知事</p>	<p>(閉会のあいさつ)</p> <p>未来島構想に着手したのが、いかに先進的だったか、昔から未来をテーマに取り組んでいるということを再認識させられた。</p> <p>構想全体として計画した事業が順調に進んでいると評価されている。客観的に見て未来島構想は進んでいるという風に評価していただき、自己肯定感を高く持っていただきたい。ただ問題は人口減少、高齢化、労働力不足。淡路の抱えている問題は人の問題に尽きる。そういう意味では問題の所在は非常に分かりやすい。</p>

人の問題は、定住人口と関係人口(交流人口)の2つあるが、今日2つの報告があり、兵庫SPO支援センターの報告は定住人口、島に住んで幸せになれるような地域社会をつくることに焦点があっていた。島に住んでいる人が幸せに住めるというふうに思うのでなければ、やはり島の定住人口は増えることなく減っていつてしまう。改めて定住人口をしっかりと引き留める、あるいは更に外から定住人口が入ってくるような島作りをする課題というのが提示されたのではないかと。

外から入ってくる人口(交流人口)は追い風のもとにある。今の島の現状からすると、量として観光客が増えると渋滞がますます増える。それが必ずしも島、お客さんにとって幸せかどうか分からない。単純に外から入ってくる観光客が今の状況のまま増えていくということは、あまり望ましいことではなく、狙うべきことでもないと思う。目指すべきは頭数を増やすのではなく、質をあげていくこと。

例えば宿泊、日帰りではなく宿泊してもらい、来て頂いたときに少しでも多く消費してもらおう環境を整えること。また、マイカー交通ではなく、公共交通を利用して渋滞リスクを減らしながら、観光客を増やすこともできる。

外国のお客さんが増えると季節的な平準化ができる、正月や盆、GWに集中するのではなく、インバウンドは1年間分散させることができる。そういうお客さんの質をあげていくということで、ターゲットを見計らってこれから取り組んでいけるのではないかと。

DMOが出来るということはまさに質を、狙いを定めて戦略的に取り組んでいく、そのための非常に大事なベースとなる。これから、DMOとしてしっかりとその役目、責任を果たせるように、それぞれのお立場の皆さんからのサポートをお願いしたい。

後継者の話が難しいのは、次の時代を担う人に首に縄をつけて引っ張り込むわけにはいかないこと。次の時代を担う若い人たちが本気でその気になるような、そそられるような社会、職業を提示していかなければいけない。今係わっている人が次の後継者に対して、自分の仕事がこういう仕事であると、継ぐべき価値あるものと思わせないといけないが、これが難しい。日本全体が人口減少なので、色んな産業全て後継者問題を抱えている。今自分がやっている仕事に将来性がある、若い人たちもやりがいを持ち取り組んでもらえると提示していくことがなかなか難しい。簡単な解決はないと思うが、淡路島の恵まれている客観的状況からすると可能だと思う。

アドバイザーの先生方からも色々貴重なご意見ご提言をいただき、原点に帰らなければいけないという理念や、具体的なご提言をいただいた。出来ることを一つずつしっかりと取り組んでいく必要がある。これからもあわじ環境未来島構想推進協議会、大勢の皆さんが係わってくださっているので、大勢の力が一つになるように頑張っていきたい。